生徒指導通信

令和８年10月８日
熊野町立熊野東中学校
生徒指導部

～ハーモニーの前に心を合わせる。合唱コンクールで磨く「やり切る力」と仲間との絆～

いよいよ、「合唱コンクール」に向けた練習が本格的にスタートします。校舎のあちこちから聴こえてくる歌声に、秋の深まりとクラスの意気込みを感じる季節です。合唱コンクールは、単に歌のうまい・建前を競い合う場ではありません。音楽の授業での学習成果を基盤としながら、学級の仲間と意見を交わし、時にぶつかり合いながら一つの曲を創り上げていく「特別活動」です。

キーワードである「やり切る力」を胸に、クラスの心を一つにして最高の一曲を奏でるためのポイントを確認していきましょう。

１．最高の一曲を創るための「マインドセット」

練習が始まったばかりのこの時期は、上手なテクニック以上に「どのような心構えで合唱に向き合うか」という姿勢が何より大切です。

○「上手さ」ではなく「全力で声を重ねる」ことを目指す

歌が得意な人もいれば、少し苦手意識を持っている人もいます。合唱は、完璧な歌手を集めるコンテストではありません。一人ひとりの異なる声が混ざり合い、響き合うからこそ、世界に一つだけの美しい合唱が生まれます。上手か下手かで評価し合うのではなく、自分の声を隠さず、「クラスのために全力で声を重ねる姿勢」を誇りに思いましょう。得意な人は周りを温かく引っ張り、自信がない人も恐れずに声を重ねていく姿勢こそが、聴く人の心を打つ最大のエネルギーになります。



○「東中三訓（時・場・礼）」を合唱の土台にする

【時】練習開始の時間前に移動を完了し、全員で歌い始める

練習時間の１分の遅れは、クラス全体の集中力を削ぎます。時間を守る行動は、仲間を大切にする「思いやり」そのものです。限られた時間で一生懸命練習しましょう。

【場】音楽室や教室の整理整頓、姿勢を整える

乱れた空間や背中の丸まった姿勢から、クリアで響く歌声は生まれません。場を清め、姿勢を正して心を整えましょう。

【礼】指揮者・伴奏者・パートリーダーへ感謝をつくす

クラスのために陰で何時間も練習を重ねてきた実行委員、リーダーたちに敬意を持ち、その指示に全員で耳を傾ける「礼の心」を大切にしましょう。

２．練習中盤：「壁」と「葛藤」を乗り越えた先に本物の絆ができる

練習が進むと、「テンポが合わない」「パートごとの声の大きさが違う」「男子と女子で熱量に差がある」といった伸び悩みの「壁」に必ず直面します。時には、リーダーとメンバーの間で意見が食い違ったり、雰囲気がギクシャクしたりすることもあるでしょう。

〇「意見の衝突」は真剣に取り組んでいる証拠（成長のチャンス）

トラブルや葛藤が生じたとき、「このクラスはダメだ」とあきらめる必要は全くありません。ぶつかり合いが生まれるのは、みんなが「本気で良い合唱にしたい」と願っているからこそです。意見の違いから逃げずに、「どこをどう直せばもっと良くなるか」を話し合い、合意形成を図っていくプロセス（過程）こそが、皆さんの「やり切る力」と「自律した集団」を大きく育てる宝物になります。

〇相手を責める「批判」から、高め合う「アドバイス」へ

「〇〇くんの声が小さい」「もっとちゃんと歌って」と特定の人を責める言葉は、相手の心を閉じさせてしまいます。「ここで一度息を吸おう」「アルトのメロディがすごく綺麗だから、そこに合わせてみよう」など、相手の良さを認め（承認）、具体的にどう協力できるか（共感）を言葉で伝え合いましょう。

３．鑑賞のマナー：他クラス・他学年への「敬意」を拍手に込める

合唱コンクール当日は、自分たちの発表だけでなく、「聴く姿勢（鑑賞マナー）」においても東中生の誇りを見せてください。 舞台に立つ仲間や先輩・後輩たちが、今日までどれほどの努力と葛藤を積み重ねてきたか。その背景に想像力を働かせ、ステージ上の静寂を守り、演奏が終わった時には心を込めた温かい拍手を送りましょう。上級生の圧巻の歌声と姿勢を目に焼き付け、熊野東中学校の素晴らしい「合唱文化」をしっかりと創り上げていきましょう。



「当たり前」のその先へ！
一人ひとりの声を重ね合い、
熊野東中学校の歴史に残る「感動のハーモニー」を
自分たちの手で創り上げよう！

